

ゆん・なんニュースレター

第50号 令和4年 1月10日

あけましておめでとうございます。令和4年(2022年)の幕開けです。相変わらずのマスク生活ですが、ゆん・なんでも外食、外出も少しずつ増えてきました。どうぞ、ヨーロッパの状況にはなりませんように。と、ここで沖縄、山口、広島でコロナのまん延防止等重点措置が適用されました。個人としては、密を避ける、手洗い、マスク着用の基本で生活するしかありませんよね。

昨年の12月の第4木曜日の午後、自転車に乗った中学生の男子6名が「きょうはゆんたくのカレーの日ではないですか?」とホーム玄関に居た私に尋ねました。「キッチン・ゆんたくは第3木曜日で先週だし、キッチン・ゆんたく自体、今は桂川自治会館に移ったんよ」と答えると、残念そうに「そうなんや」と帰っていきました。自治会館での開催もっと周知、広報に👉を注いでいかねばと思いました。

リンダ・グラデットンさんの話は「高齢化はどの国でも進んでいて、日本だけでの問題ではない。長寿を素晴らしいものにするためには、人々は健康で生産的でなければならない。」と続きます。

健康的な生活の第一は食生活ですが、日本はその点はカバーされていると言えます。健康的な生活の第二の部分は、家族や地域社会との関係についてです。このパンデミックでわかったことは、東京の人が東京に住む必要はないということです。ほかの美しい都市にも住めてその方がおそらくもっと健康的な生活が送れます。

パンデミックの後、どうするかという質問は、パンデミックが私たちに示したことは、予期せぬ出来事は起こるものだということです。もちろん日本では地震や津波がおきています。日本の人は、おそらく他の多くの国よりも、悪いことは起きる可能性がある、ということを知っています。新型コロナウイルスは何を教えてくださいましたか。それは抵抗力の重要性だと思えます。なぜならば、パンデミックに遭遇した時、抵抗力があったなら、つまり、健康だったということ。強い人間関係を持っていた。貯金があった。つまり、有形・無形の資産を持っていたということです。それがあなたにパンデミックに対する緩衝材となったわけです。つまり、経済的、社会的、そして健康面で自分のための緩衝材を準備するというのが必要だという意味ですね。



ゆんたくホームのゆんたくさびら

(おしゃべりしましょう)

お正月休みを挟んでの長かった(短かった)冬休みもいよいよ終わりに近づいて、宿題がある子は済ませて、そうでない子は休み明けのテストの勉強したり、受験生の子はもうすぐ始まる私学の入学願書提出やらで慌ただしくなります。年末にかけてだいぶ治まってきたコロナの感染者数がここに来て増加。嫌ですね。濃厚接触者にならぬよう、それぞれが気を付けて自分の為、お互いの為に感染防止につとめましょう!

冬休みのゆんたくでは、子ども同士のかわり得年長の子が年下の子を気遣ったり、声をかける姿が見られました。鍋の大好きなAちゃんが寄せ鍋をしたのですが、偏食の多いBちゃんと一緒に野菜を切ったり、後片付け指示したりと大人が入らなくても上手く切り盛りしてくれたと報告がありました。(`艸`)



なんくるはなんくるないさ〜

(なんとかなるよ!)

なんくるの子どもたちも無事、新年を迎えました。年末年始はそれぞれお友達と過ごしたようで、少しは羽を伸ばすことができたかな?と思います♪♪

人数も増えて賑やかになりつつありますが、みんなバイトや遊びに大忙し!!冬休みが終わればもっと大忙しの日々になることでしょう。今のうちにやりたいことに思いっきり挑戦してほしいですが、何よりも体調管理だけが心配・・・コロナもまた感染者が増えてきているようなのでそこだけが心配です。

とにかく手洗いうがいを徹底して、しっかり睡眠をとるようにするしかありませんね。みんなで乗り切っていきましょう!





らいげつ あんない
来月のキッチンゆんたくのご案内

2022年

2月17日(第3木曜日) 開催

よてい
予定メニュー

- ・ゆんたくカレー
- ・サラダかな?



1月のキッチンゆんたく

メニュー♪

- ・ゆんたくカレー
- ・サラダ

夕方5:30~なくなり次第終了

☆子ども…100円/大人…300円

かいしょく

会食です!!

なくなり次第終了です。早めにきてね♪

※今回は、生理用品の寄付があります。

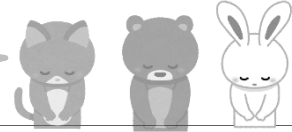
Thanks

きんりん かいしゃ さま きんいっふう こめ
近隣の会社、K様より金一封を、近隣のU様よりお米をいただきました。

きょうと かし みず かん
フードバンク京都様よりお菓子、お水、ニンジン、コーン缶をいただきました。

みなさま
皆様、いつもありがとうございます。

Thanks ♪



かみしばい えほんしょうかい
紙芝居・絵本紹介

『おおかみと七ひきのこやぎ』

ヤーコブ・グリム

ヴィルヘルム・グリム ・著

こんかい どうわ わる こ いっぺん
今回はグリム童話から・・・悪いおおかみを懲らしめる一編です。

<あらすじ>

あるところにお母さんやぎと七匹のこやぎが住んでいました。ある日お母さんやぎは「くれぐれもおおかみには気をつけるんだよ」とお留守番を頼んで、買い物に出かけました。ところがおおかみがやって、「お母さんだよ」とこやぎ達をだまし、家に入りこむと、次々に隠れたこやぎ達を見つけて丸飲みにしてしまいました。帰ってきたお母さんやぎの驚きと言ったら……

お母さんやぎは、こやぎ達の名前を呼びました。末の子やぎだけの返事が・・・柱時計に隠れていた末のこやぎだけが見つからずすみません。お母さんやぎは眠りこんでいるおおかみのお腹を切り開き、こやぎ達を助け出すと、かわりに石を詰め込みました。目覚めたおおかみは……どうなったのでしょうか?

わだい むすこ さいなか じ いま ころ ほんとう
絵本のことを話題にしていたら、「うちの息子(30歳半ば、2児のパパです)は、今でもこの絵本はこどもの頃、本当に怖かったと何度も言う」と笑いながら話してくれました。読み手の声色もあったのでしょうか…

ドキドキしながら怖いものを見るスリルを、楽しむことってありますよね。